



2022年12月9日

各位

会社名 株式会社ハイレックスコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 寺浦 太郎
(コード番号 7279 東証スタンダード市場)
問合せ先 経理グループ担当執行役員 芦田 安功
(TEL 0797-85-2500)

通期連結業績予想と実績の差異ならびに個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2022年10月期通期連結業績において、2022年9月9日に公表しました2022年10月期（2021年11月1日～2022年10月31日）通期の連結業績予想と実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。あわせて、個別業績におきましては予想を開示しておりませんでした。前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年10月期の通期連結業績予想数値と実績との差異（2021年11月1日～2022年10月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	245,800	△2,500	△1,100	△2,700	△72.01
実績値 (B)	255,616	△4,856	△2,474	△7,120	△189.85
増減額 (B - A)	9,816	△2,356	△1,374	△4,420	—
増減率 (%)	4.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年10月期)	217,754	685	3,032	4,896	129.08

差異の理由

2022年10月期の売上高は、半導体供給不足等により主要顧客である各自動車メーカーの生産が不安定に推移した一方で、為替相場が円安方向に進んだ影響により邦貨換算額が増加した影響もあり、直近で公表した業績見込みを上回りました。営業損益、経常損益は、資源・素材の高騰に伴う材料コストの上昇、半導体供給不足による調達コストの急増、世界的な輸送コストの高止まりが当社の想定を大きく上回って継続したこと、主に米国を中心とした雇用逼迫の影響と顧客の休業・減産対応に伴う生産効率低下の影響等により、直近で公表した業績見込みより悪化し、損失額が増加いたしました。親会社株主に帰属する当期純損益は、主に連結子会社において固定資産の減損損失 2,717 百万円を計上した影響により、直近で公表した予想値より損失額が大幅に増加いたしました。

2. 2022年10月期の通期個別業績と前期実績との差異（2021年11月1日～2022年10月31日）

	売上高	経常利益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A）	48,076	3,169	3,736	98.50
実績値（B）	49,082	3,004	△3,065	△81.73
増減額（B－A）	1,005	△165	△6,801	－
増減率（%）	2.1	△5.2	－	－

差異の理由

通期（2021年11月1日～2022年10月31日）の個別売上高は、主に世界的な半導体供給不足等により主要顧客である各自動車メーカーの生産が不安定に推移した一方で、新規の量産立ち上げ品種による販売増加影響もあり、前年実績を上回りました。経常利益は、主に資源・素材の高騰に伴う材料コストの上昇、半導体供給不足による調達コストの急増及び円安の進行に伴う海外調達コストの上昇により営業費用が大幅に増加したことから、前年実績を下回りました。当期純損益は、主に投資有価証券売却益が前年比で大幅に減少したこと、関係会社出資金評価損を計上した影響等により損失計上となりました。

以 上